

クリーン乳業監視システム

十数年の発展を経て、乳業はすでに中国農業の中で比較的独立した産業となっていた。注目点が品質に移っているが、先進国と比べるとまだ大きなギャップが存在している。規模が小さく、生産量が低く、生産場所がバラバラしている局面はしばらく変わらないであろう。クリーン乳業と有機乳業が始まったばかりの頃は、経験不足でクリーン乳業の発展は制限された。品質とスピードの関係、環境と発展の関係を注意しなければ乳業の全体的と長期的な発展に影響を与える。だから、クリーン乳業の監視体系は乳業の発展にとって重要である。

クリーン乳業の生産と普通の乳業生産は類似点がある。同じく乳牛の生理機能を利用し、人工飼育と繁殖を通して乳製品を得る生産部門である。乳業の生産は自然環境と社会活動等の要素がともに働き合って発展してきた。これらの要素は相互につながり、相互に制約し、質の安全と量の安全を同時に注目してこそ、均衡的な発展を実現できる。そうではないと、乳業の生産が停滞し、産量が下がり、乳業自身の発展を脅かす。だけでなく、人間の命と生存を脅かす。

クリーン乳業監視というのは、ある段階でクリーン乳業が社会の危害になる前に予測することである。

クリーン乳業は自然要素の影響を受ける。物質からエネルギーへの転換から見ると、飼料の生産も土地、水分、空気、日差しなどと離れられない。「植物—動物—生産品」というクリーン乳業の物質からエネルギーへの転換過程は、まずクリーン植物からの培養である。土地の養分、水分、空気中の二酸化炭素を吸収し、光合成を通して植物エネルギーになる。自然要素から離れると、植物性生産ができないし、動物性生産もいっそうできない。だから、自然要素はクリーン乳業生産の前提条件である。

クリーン乳業の生産は一定の地域範囲内で行うので、生態と地理的な法則に制約され、違う地域でクリーン乳業の生産も異なる。中国の畜牧業では各地の地理と経済条件に従って、農区、牧区、半農半牧区に分けられる¹。地域ごとに制約要素も違っている。農区では、クリーン乳業の発展のカギはクリーン飼料の供給が十分足りているか。どんな飼料方法でクリーン乳業の発展ニーズに合うのか、動物を放牧するスペースは足りているかということである。牧区のクリーン乳業は主に自然条件に制限され、牧草地の提供がクリーン乳業の発展を満足できるか。ほかの飼料源はあるか。ほかの飼料源の安全性はどう確報するか。半農半牧区のクリーン乳業発展は、牧草地の提供を考えただけで、ほかの飼料も同時に考えなければならない。要するに、クリーン乳業の監視システムは地域ごとに異なる。

経済学から見ると、乳牛は生産手段である。乳牛と乳製品の間で「生産装置」のように

存在し、母牛、種ウシ、乳牛を利用して生産し、物質財産を生み出す。乳牛はまた消費手段である。各種の乳製品で人間の生活ニーズに満足させる消費手段である。乳牛は生産手段と消費手段をチェンジできる。扱い方が適切でないと、矛盾も出てくる。生産手段で乳製品を生産して人々に消費させ、同時に子牛を生産して牛の数を維持かつ拡大でき、これは生産の基礎である。だが、生産手段で使う牛が多いと、消費手段の提供が減ってしまい、商品の生産に影響を与える。逆に、消費手段で使う乳牛が多いと牛の数に影響し、拡大再生産もできない。乳業生産監視としては、乳業の二重性を根拠にし、商品の生産と拡大再生産を予測すべきである。つまり、生産手段と消費手段は均衡しているかということである。生産手段と消費手段はクリーン乳業に影響するだけではなく、クリーン飼料の成長スピード、草原の増減、クリーン乳業の設備とノウハウ、クリーン乳業の固定資産への投資、クリーン乳業の加工会社の規模などの生産前、生産中、生産後に関する多様な要素の影響もある。

クリーン乳業は社会発展レベルに制限される。社会の発展に従って乳製品の質への要求が高まる。クリーン乳製品の値段が普通の乳製品より高いので、社会の収入レベル、地域住民の好みと生活習慣などによっても影響される。

クリーン乳業監視システムは三つの価値がある。一つ目は、政策づくりに参考になる。クリーン乳業監視は、クリーン乳業の情報を分析し政府部門にクリーン乳業に関する政策と計画を打ち出すことに根拠を与え、マクロ的に把握できるようにし、損失を最低限に抑えられる。二つ目は、会社投資にミクロ的に参考になる。クリーン乳業の将来の見込みがあり、クリーン乳製品の需要も高くなるけれども、どこでも無リスクでは営利できないので、クリーン乳業監視システムを通じてミクロ投資主体にもリスクを知らせ、利益最大化の分析にも根拠を提供できる。三つ目は、地域経済の発展を促す。クリーン乳業監視システムを通じてクリーン生産品の需要と供給のバランスを保障し、乳業と社会経済の発展を促す。

¹ 吾喜杂志 发展与经济势态要求相适应的教育——对我区农区、半农半牧区教育现状、问题的思考 <http://wuxizazhi.cnki.net/Article/XZYJ199402005.html> (最終閲覧日 2011年11月28日)